

## シラバス（授業計画）目次

### 【基盤科目群】

医療保健学特論 .....	P 1
医療保健学研究法特論 .....	P 3
地域医療連携特論 .....	P 5
病態生理学特論 .....	P 7
健康医科学特論 .....	P 9
医療統計学特論 .....	P11
疾患薬理学特論 .....	P13
健康心理学特論 .....	P15
教育方法学特論 .....	P17
臨床教育学特論 .....	P19

### 【専門科目群】

人体機能学特論 .....	P21
人体機能学演習 .....	P23
病態分析検査学特論 .....	P25
病態分析検査学演習 .....	P27
感染制御学特論 .....	P29
感染制御学演習 .....	P31
運動機能回復学特論 .....	P33
運動機能回復学演習 .....	P35
生活機能回復学特論 .....	P37
生活機能回復学演習 .....	P39

### 【特別研究】

医療保健学特別研究 .....	P41
-----------------	-----

科目ナンバリング	BS101				
科目名	医療保健学特論	単位数	2 単位	必修選択	必修
担当教員名	大畑光司、小宮智義、 大工谷新一、油野友二	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	<p>本科目は、健康社会の実現に向けて医療技術者が果たす役割や生命・医療倫理について講義するとともに、ディスカッションを行いながら医療技術者の役割や生命・医療倫理について認識を深める。また、地域における医療提供体制や地域医療構想について講義するとともに、近年の感染対策や今後の地域医療における医療技術者の役割や医療機器の活用、地域医療の展望や課題について講義を行い、適宜ディスカッションを行いながら、今後の保健医療体制の中で要として機能するための知識や態度を身につける。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命・医療倫理の考えを養い、医療技術者の役割について理解する。</li> <li>・ 我が国の保健医療の現状、地域医療構想について理解する。</li> <li>・ 医療技術者として保健医療に携わる際の課題について理解する。</li> <li>・ 医療技術者として地域の医療提供体制の環境改善に向けた具体的な検討を行うことができる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	○	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	<p>予習：関連する文献等（担当教員より適宜指示）の確認をする。</p> <p>復習：授業内容について、適宜復習をする。</p>				
授業方法	講義、意見交換、個人での思考、振り返り				
成績評価の基準・方法	課題レポート（50%）、発表（50%）				
教科書	資料を配布する	参考書	特になし		
<p>授業計画</p> <p>（第1回）「健康社会の実現」に向けた医療技術者の役割（油野）</p> <p>（第2回）生命倫理四原則（油野）</p> <p>（第3回）地域における医療提供体制（1）体制に関する現状分析（油野）</p> <p>（第4回）地域における医療提供体制（2）医療技術者としての課題改善に向けたアプローチ（油野）</p> <p>（第5回）地域医療構想（1）在宅医療（大工谷）</p> <p>（第6回）地域医療構想（2）医療・介護連携（大工谷）</p> <p>（第7回）地域医療構想（3）医療技術者の役割（大工谷）</p>					

(第8回) 近年の感染対策 (1) 感染防御メカニズムとワクチン (小宮)

(第9回) 近年の感染対策 (2) 感染対策の現状分析 (小宮)

(第10回) 次世代の地域医療 (1) 医療技術者の役割 (大畑)

(第11回) 次世代の地域医療 (2) 医療機器の実装 (大畑)

(第12回) 次世代の地域医療 (3) 将来展望と課題 (大畑)

(第13回) まとめ (大工谷)

科目ナンバリング	BS102				
科目名	医療保健学研究法特論	単位数	4 単位	必修選択	必修
担当教員名	佐藤妃映、金澤佑治、周尾卓也、 關谷暁子、野口雅弘、岡山裕美、 合田明生、宮地諒、二ノ倉欣久	対象学年	1 年次	開講時期	通年
授業の概要と目的	<p>科学としての医療保健学を実践するために必要な具体的研究法を修得することを目的に、量的、質的、定性的、定量的、観察、介入、調査など様々な研究方法とその意義、及び医療保健学を研究する上での倫理、研究に関する法律やルールについて教授する。さらに、医療保健学に関する研究を実施する上で基礎となる臨床研究の批判的吟味、先行研究レビューから結果の解釈、研究計画書の作成、及び研究倫理（捏造、改ざん、盗用、二重投稿、引用・転載、利益相反）と倫理審査、スライド・ポスターや論文の作成方法について学修する。また、教員が実践してきた研究内容をもとに、様々な分野の研究について教員と学生が討論し、医療保健学分野における研究法の理解を深め、医療保健学分野における研究のあり方、必要性、可能性、研究倫理について、具体的な研究内容をもとに教授する。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な研究方法とその意義を理解する。</li> <li>研究倫理、医療倫理について理解する。</li> <li>研究計画の立案、研究計画書及び研究論文の作成方法について理解する。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	<p>予習：事前にテーマに関連して担当教員が執筆した論文を読み、質問項目をまとめる。</p> <p>復習：各回の具体的な手法、倫理手続について理解し、レポートにまとめる。</p>				
授業方法	講義、グループワーク				
成績評価の基準・方法	レポート (100%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	特になし		
<p>授業計画</p> <p>(第1回) 研究とは、研究の必要性 (佐藤)</p> <p>(第2回) テーマの選定、研究計画の立案と研究デザイン (佐藤)</p> <p>(第3回) 研究倫理 (1) 研究不正、著作権 (金澤)</p> <p>(第4回) 研究倫理 (2) ヒトを対象とした研究と倫理審査 (金澤)</p> <p>(第5回) 研究倫理 (3) 動物を対象とした研究と倫理審査 (金澤)</p>					

- (第6回) 研究倫理 (4) 研究活動における具体的事例 (金澤)
- (第7回) 医療倫理 (1) 医療倫理の四原則 (二ノ倉)
- (第8回) 医療倫理 (2) 臨床倫理 (二ノ倉)
- (第9回) 医療倫理 (3) 事例研究 (二ノ倉)
- (第10回) 研究計画書の書き方 (關谷)
- (第11回) 情報整理 (学術論文の種類と構成) (合田)
- (第12回) 文献の検索、論文の読み方 (合田)
- (第13回) 英語論文の読み方 (佐藤)
- (第14回) 基本的統計解析手法 (周尾)
- (第15回) 量的研究法、質的研究法 (1) (周尾)
- (第16回) 質的研究法 (2) (周尾)
- (第17回) 論文投稿と論文査読 (宮地)
- (第18回) 科学研究費の種類と申請 (野口)
- (第19回) 学会報告、プレゼンテーションの方法 (岡山)
- (第20回) 研究論文の書き方 (1) 論文の基本構成と作成手順 (野口)
- (第21回) 研究論文の書き方 (2) 資料収集と表記、引用の仕方 (野口)
- (第22回) 調査研究の実践－調査研究紹介～教員の実践例～ (1) 神経生物学研究 (周尾)
- (第23回) 調査研究の実践－調査研究紹介～教員の実践例～ (2) 医療保健学教育研究 (關谷)
- (第24回) 調査研究の実践－調査研究紹介～教員の実践例～ (3) 運動生理学研究 (岡山)
- (第25回) 調査研究の実践－調査研究紹介～教員の実践例～ (4) 予防理学療法学研究 (宮地)
- (第26回) まとめ (佐藤)

科目ナンバリング	BS103				
科目名	地域医療連携特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	石川和宏、大柳賀津夫	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行している我が国において、連携した医療体制が強く求められているところであるが、そこには病院と地域における適切な医療連携が必要不可欠である。そこで、この連携において特に重要となるのが多職種連携であることから、本特論ではその重要性について海外の医療制度改革も参照しながら理解を深めると共に、医療と介護の連続性も含めて各専門職が担う役割について教授する。さらに对患者、対介護者へのリハビリテーション等がもたらす効果を経済的視点で評価していくことも重要であるため、その方法論や評価手法についても教授する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院と地域の医療における多職種協働の意義について理解する。</li> <li>・ 病院と地域の医療連携における各専門職が担う役割について理解する。</li> <li>・ 医療と介護の連続性も含めた連携した医療体制の重要性について理解する。</li> <li>・ 専門職としての活動がもたらす効果の経済的評価について理解する。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：シラバスを確認し、該当部分について予習をする。 復習：授業内容の十分な理解を促すための復習をする。				
授業方法	講義、演習、成果発表				
成績評価の基準・方法	レポート (100%)				
教科書	薬学と社会：医療経済・多職種連携とチーム医療・地域医療・在宅医療（乾賢一編、中山書店）	参考書	次世代を担う医療者のための地域医療実践読本（中根晴幸、幻冬舎）、詳説 薬剤経済学—次世代に向けた医療経済学・地域医療学—（恩田光子ら著、京都廣川書店）		
<b>授業計画</b> (第1回) 地域の保健、医療、福祉、介護における活用可能な社会資源について (石川) (第2回) 地域の保健、医療、福祉、介護における多職種協働の必要性とチーム医療について (石川) (第3回) 病院と地域の医療連携について (石川) (第4回) 地域医療①：在宅医療について (石川) (第5回) 地域医療②：在宅医療・介護について (石川)					

- (第6回) 地域医療③：介護サービスと提供機関について (石川)
- (第7回) 地域医療④：在宅医療・介護を受ける患者について (石川)
- (第8回) 社会保障制度①：日本および諸外国における社会保障制度について (大柳)
- (第9回) 社会保障制度②：医療保険制度と介護保険制度について (大柳)
- (第10回) 社会保障制度③：地域包括ケアシステム概念の5つの構成要素について (大柳)
- (第11回) 医療経済①：費用対効果、意思決定、経済評価方法、QALYについて (大柳)
- (第12回) 医療経済②：経済評価分析の結果の解釈、増分費用効果比 (ICER) について (大柳)
- (第13回) 医療経済③：決定樹 (判断樹) モデルとマルコフモデル (大柳)

科目ナンバリング	BS104	関連する DP		DP1	
科目名	病態生理学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	高橋達雄、高橋寿明	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	病態生理学は、人体が正常に営む仕組みを学ぶ生理学が基礎となっているが、生理学的知見に加えて、生化学、分子生物学、遺伝学、生体防御学など幅広い知識のもとに症候や疾患を捉える必要がある。本特論では骨疾患、呼吸器疾患、消化器疾患について、その成り立ちに焦点を合わせて学ぶ。また代表的な疾患については実際の症例を用いて検討し、理解を深めていく。これらの学びを通して、各疾患で現れる症状、異常検査値、治療アプローチなどが理解できるようになることを目指す。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体の病的変化から疾患を推測できる。</li> <li>・ 代表的疾患について、成り立ち、症状、異常検査値、治療アプローチについて説明できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：シラバスを確認し、該当部分について事前学習をする。				
授業方法	講義、課題発表				
成績評価の基準・方法	課題レポート (50%)、発表 (50%)				
教科書	講義ごとに資料を配布する	参考書	特になし		
<b>授業計画</b> (第1回) 骨の生理学：総論 (高橋達雄)  (第2回) 骨粗しょう症の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋達雄)  (第3回) 変形性関節症の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋達雄)  (第4回) 関節リウマチの病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋達雄)  (第5回) フレイルの予防と対策：基礎研究から臨床応用へ (高橋達雄)  (第6回) 骨疾患に関する課題発表 (高橋達雄)  (第7回) 呼吸器の生理学：総論 (高橋寿明)  (第8回) 気管支ぜん息の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋寿明)  (第9回) 慢性閉塞性肺疾患の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋寿明)					



(第 10 回) 消化器の生理学：総論 (高橋寿明)

(第 11 回) 消化性潰瘍の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋寿明)

(第 12 回) 肝炎・肝硬変の病態生理、症状、異常検査値、治療アプローチ (高橋寿明)

(第 13 回) 呼吸器および消化器疾患に関する課題発表 (高橋寿明)

科目ナンバリング	BS105	関連する DP		DP1	
科目名	健康医科学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	高橋寿明、松尾由理、光本泰秀	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	<p>超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸が喫緊の課題となっている。医療専門職として、疾病予防法や補完代替医療を含む臨床医学分野の最新の知識を学ぶことは、自らの生涯学習として有用なだけでなく、専門職として接する患者や家族の状況を理解し専門的判断を構築する際に役立つ。また、健康科学全般の総合的な知識は、コミュニケーション能力を高めるうえで重要な土台となる。そこで本科目では、健康維持や疾病予防の観点から、各種疾病の成り立ち、診断基準の変化など、疾病に対する最近の進歩、更には病態に影響を与える食材や栄養素、補完代替医療についても最新の健康科学の内容も含めて総括的に学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命延伸に向け対策が必要な疾患に対する予防アプローチについて説明できる。</li> <li>各種食材や健康食品による健康増進効果と疾患予防効果について説明できる。</li> <li>補完代替医療の人体に対する効能・効果の裏付けとなる科学的エビデンスについて説明できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：シラバスを確認し、該当部分について事前学習をする。				
授業方法	講義、課題の成果発表				
成績評価の基準・方法	課題レポート (50%)、課題発表 (50%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	特になし		
<p>授業計画</p> <p>(第1回) 骨粗しょう症に対する予防アプローチ (高橋)</p> <p>(第2回) 高血圧による心疾患・脳血管疾患に対する予防アプローチ (高橋)</p> <p>(第3回) 脂質異常症による心疾患・脳血管疾患に対する予防アプローチ (高橋)</p> <p>(第4回) 糖尿病に対する予防アプローチ (高橋)</p> <p>(第5回) 健康食品による健康増進効果と疾患予防効果 (松尾)</p> <p>(第6回) 加賀野菜を中心に各種食材による健康増進効果と疾患予防効果 (松尾)</p>					

(第7回) 食品成分による脳神経疾患に対する予防効果① (作用メカニズム) (松尾)

(第8回) 食品成分による脳神経疾患に対する予防効果② (具体的な症例) (松尾)

(第9回) 食品による健康増進効果と疾患予防効果 (発表) (松尾)

(第10回) 補完代替医療に含まれる材料に関する、人体に対する効能・効果の科学的エビデンス  
(光本)

(第11回) 補完代替医療に含まれる手法に関する、人体に対する効能・効果の科学的エビデンス  
(光本)

(第12回) 西洋医療と補完代替医療を組み合わせた統合医療の有益性 (光本)

(第13回) 西洋医療と補完代替医療を組み合わせた統合医療の問題点 (光本)

科目ナンバリング	BS106	関連する DP		DP1	
科目名	医療統計学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	清水芳行	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	<p>医学・医療分野では信頼できる結論を導く際にデータを統計的方法で解析し結論を求めることが多い。本特論は、既に学部で統計学の基本を学んだことを前提により深く、統計基礎と医学応用を中心に学び、医学・医療で使う統計手法を理論と応用の両面から修得する。基礎では、確率変数と分布、近似表現、推定理論と検定理論等に焦点を当て、統計の考え方を理解することに重点を置く。医学応用では、医学・医療に関連した統計資料の活用法や、医療と地域経済を関連付けた分析を行うための統計資料の取り扱いについても学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療統計学の理論について説明できる。</li> <li>・ 各種統計データの活用や取り扱いについて説明できる。</li> <li>・ 医療経済学や地域経済学を理解するために関連統計資料の意味合いについて説明できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	<p>予習：シラバスに記載した授業計画を参考に、次回の講義内容についてテキストを確認する。その際、不明な単語、専門用語などをノートにまとめ、質問できるように準備をする。</p> <p>復習：講義で控えたノートを再度見直し、整理する。不明点は担当教員に確認し理解不足がないように心がける。</p>				
授業方法	講義、演習				
成績評価の基準・方法	課題レポート (50%)、発表 (50%)				
教科書	豊田修一・星山佳治, ほか「看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理。」(実教出版)	参考書	特になし (適宜資料を配布する)		
	浜田淳・齋藤信也 編著「医療経済学・地域医療学」(岡山大学出版会)				
<p>授業計画</p> <p>(第1回) 医療統計学概論</p> <p>(第2回) 確率と分布</p> <p>(第3回) 仮説検定</p> <p>(第4回) 分散分析</p>					

(第5回) 疫学と統計

(第6回) 医療統計応用①人口動態統計

(第7回) 医療統計応用②患者統計

(第8回) 医療統計応用③医療施設統計

(第9回) 医療統計応用④病床機能報告

(第10回) 医療経済と地域経済①医療経済学概説

(第11回) 医療経済と地域経済②地域経済学概説

(第12回) 医療経済と地域経済③北陸三県の地域医療と地域経済分析

(第13回) 医療経済と地域経済④石川県の地域医療と地域経済分析

科目ナンバリング	BS107	関連する DP		DP1	
科目名	疾患薬理学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	高橋達雄、松尾由理、光本泰秀	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	薬理学とは、薬物が効果を発揮する際に、生体のどこで、どのような標的分子に対してどのように作用するかを論理的に理解する学問である。薬物の効果に関わる作用機序の理解は、薬物治療における適切な医薬品の選択および用法・用量を導き出すだけでなく、副作用の予見や治療的応用性を考えるうえで重要な根拠となる。また、医療従事者が適正な医療を提供するためにも、薬物の生体に及ぼす影響を理解することは必要不可欠である。本特論では、分子レベル、細胞レベル、個体レベルにおける薬物の薬理について総括的に理解するとともに、治療的応用性について考察する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬の作用機序、治療効果、副作用、禁忌について説明できる。</li> <li>薬の効果的な使用法および治療的応用性について説明できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：シラバスを確認し、該当部分について事前学習をする。				
授業方法	講義、課題発表				
成績評価の基準・方法	課題レポート (50%)、発表 (50%)				
教科書	シンプル薬理学 改訂第 6 版 (野村隆英ほか/編集、南江堂)	参考書	コメディカルのための薬理学 第 2 版 (渡邊泰秀ほか/編、朝倉書店)		
<b>授業計画</b> (第 1 回) 薬理学：総論 (松尾)  (第 2 回) 循環器系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (高橋)  (第 3 回) 循環器系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (高橋)  (第 4 回) 腎・泌尿器系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (高橋)  (第 5 回) 腎・泌尿器系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (高橋)  (第 6 回) 内分泌系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (松尾)  (第 7 回) 内分泌系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (松尾)  (第 8 回) 代謝系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (松尾)					

(第9回) 代謝系疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (松尾)

(第10回) 精神疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (光本)

(第11回) 精神疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (光本)

(第12回) 神経変性疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (光本)

(第13回) 神経変性疾患に用いられる治療薬の薬理、臨床使用、治療的応用性 (発表) (光本)

科目ナンバリング	BS108	関連する DP		DP1	
科目名	健康心理学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	林洋一	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	健康心理学は、心身の健康を目指した臨床心理学の応用領域の一つである。本科目では、健康の増進やリスク予防、健康・医療心理学に関する課題を概観しながら、ウェルビーイングを支える習慣や健康リスク、健康リスクのある集団へのアプローチ、医療現場における心理社会的課題及び必要な支援、医療における行動と心理や疾病を抱える人たちとのコミュニケーションの取り方やメンタルヘルスケアの基本、災害時における心の健康とその支援、これらを支える法律や制度について理解する。				
授業の到達目標	・ 医療・保健領域の諸問題を把握し、健康心理学的観点から見立て、支援方針を具体的に検討できるようになる。				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	△	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：テーマに関するディスカッションの準備をする。 復習：テーマへの振り返りを小レポートにまとめる。				
授業方法	グループワーク、ディスカッション、ディベート				
成績評価の基準・方法	ディスカッション (40%)、課題レポート (60%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	島井哲志・長田久雄・小玉正博 (2020) 「健康・医療心理学 入門 -- 健康な こころ・身体・社会づくり」有斐閣		
授業計画 (第1回) 健康心理学とは何か  (第2回) 健康とストレス  (第3回) 健康と食行動  (第4回) 健康と運動・睡眠  (第5回) 学校のメンタルヘルス  (第6回) 職場のメンタルヘルス  (第7回) 社会保障、健康政策と健康心理学  (第8回) 健康教育					



(第9回) 自殺予防

(第10回) 保健医療分野における心理的支援

(第11回) 災害時に必要な心理的支援

(第12回) 医療従事者の課題 -健康心理学的観点から-

(第13回) まとめ

科目ナンバリング	BS109	関連する DP		DP1	
科目名	教育方法学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	東風安生	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	高度専門職業人に期待される、部門における人材育成や学生指導において、医療専門職としては、その様々な背景から「教育とは何か」、「教育はどうあるべきなのか」といった問いに対して、経験に根ざしたさまざまな考えや意見をもっている。しかし、人材育成や学生指導といった教育に取り組むうえでは、それが個人的・独善的な考えに基づいたものであってはならない。本科目では、個人の経験を越えた俯瞰的で多角的な視座を得るための重要な手がかりとして、教育の基本的概念を理解する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習目標、教育方法、教育学習評価の基礎を理解する。</li> <li>・ 整合性の取れた授業設計を行い、授業実践を体験し、省察する。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
		DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：関連する文献等（担当教員より適宜指示）の確認をする。 復習：授業内容について、適宜復習をする。				
授業方法	講義、ペア及びグループ活動、個人での思考、振り返り				
成績評価の基準・方法	ミニッツペーパー（60%）、レポート（40%）				
教科書	指定しない（適宜資料を配布する）	参考書	授業方法の基礎（中井俊樹、小林忠資編集、医学書院 2017. 8）		
<p>授業計画</p> <p>（第 1 回）ガイダンス（教育方法論の概要）</p> <p>（第 2 回）授業設計と学習目標</p> <p>（第 3 回）教育方法の基礎①（学習科学）</p> <p>（第 4 回）教育方法の基礎②（講義法）</p> <p>（第 5 回）教育方法の実践①（シラバス作成）</p> <p>（第 6 回）教育方法の実践②（授業設計）</p> <p>（第 7 回）教育方法の実践③（アクティブラーニング）</p> <p>（第 8 回）ICT の活用</p> <p>（第 9 回）教材・教具・学習環境</p>					

(第 10 回) 授業評価・教育評価

(第 11 回) 教育学習評価の基礎

(第 12 回) 教育学習評価の実際

(第 13 回) リフレクション (省察的教育実践)

科目ナンバリング	BS110	関連する DP		DP1	
科目名	臨床教育学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	大工谷新一、油野友二	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	部門管理において、職員教育（人材育成）は重要となる。職場における教育には、目標管理、人事考課、品質保証（質の管理）などの指標の理解から、職場内教育（On-the-Job Training、OJT）、面接（面談）、研究指導などの方法論の理解まで、多くの事柄を理解しておく必要がある。また、高度専門職業人においては、部門における人材育成だけでなく、学生を含めた後進を指導、教育する能力も求められる。本特論では、部門管理や職員指導、学生指導で重要となる教育（人材育成）の基盤となる理論や制度と具体的方法及び評価方法について教授する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育、部門管理における質保証の理論と方法について理解する。</li> <li>・ 医療専門職の養成教育に関するガイドライン、コアカリキュラムを理解する。</li> <li>・ 様々な教育指標をもとに、効果的な臨床教育方法について提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
		DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：事前にテーマに関連した文献、書籍を渉猟し、概略を理解したうえで考えられる課題を整理する。 復習：学修内容とこれまでの自らの経験を対比し、今後取り組むべき課題についてまとめる。				
授業方法	講義				
成績評価の基準・方法	課題レポート（100%）				
教科書	指定しない（適宜資料を配布する）		参考書	特になし	
授業計画 （第1回）臨床教育学総論①：臨床における教育、人材育成の重要性（油野） （第2回）臨床教育学総論②：質保証の理論（油野） （第3回）臨床教育学総論③：質保証の方法（油野） （第4回）臨床教育に関連する多職種連携（油野） （第5回）医療専門職における教育ガイドライン（油野） （第6回）医療専門職教育におけるモデル・コア・カリキュラム（油野）					

(第7回) 臨床における教育指標体制 (大工谷)

(第8回) 臨床における教育指標① (目標管理) (大工谷)

(第9回) 臨床における教育指標② (バランストスコア) (大工谷)

(第10回) 臨床における教育指標③ (職能要件) (大工谷)

(第11回) 臨床における教育指標④ (人事考課) (大工谷)

(第12回) 臨床教育方法① (診療参加型臨床実習) (大工谷)

(第13回) 臨床教育方法② (臨床研究指導) (大工谷)

科目ナンバリング	SCS201	強く関連する DP		DP1	
科目名	人体機能学特論	単位数	2 単位	必修選択	必修
担当教員名	清水慶久、少作隆子、金澤佑治、 周尾卓也	対象学年	1 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	健康な人の生理機能とそれを可能にするメカニズムを理解したうえで、人体機能を分子、細胞レベルから、組織・器官・個体レベルの高次の統合機能まで系統的・階層的に理解することを目的に、人体の生命現象を担う機能としての生命維持を担う機能と外界に適応する機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から、組織と物質的基盤に基づいた生理機能を教授する。また、健康な人の生理機能だけでなく疾病や障害を有する場合の病態生理、機能についても言及する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命維持を担う生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 人体が外界に適応するための生理機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 疾病や障害を有する場合の病態生理、機能について、個体、臓器、細胞および分子レベルという観点から理解する。</li> <li>・ 人体機能を個体、臓器、細胞および分子レベルの観点から理解したうえで、適切な医療技術や人体機能の解明方法について提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	○	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：事前にテーマに関連した論文を読み、質問項目をまとめる。 復習：これまで学習してきた知識と新たに学んだ内容を比較、整理してまとめる。				
授業方法	講義				
成績評価の基準・方法	レポート (100%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)		参考書	特になし	
授業計画 (第1回) 自律神経系 (清水)  (第2回) 脳神経系 (清水)  (第3回) 血液系 (清水)  (第4回) 生化学系 (周尾)  (第5回) 電解質系 (周尾)					

(第6回) 浸透圧系 (周尾)

(第7回) 中枢神経系 (少作)

(第8回) 神経伝達系 (少作)

(第9回) 遺伝子系 (少作)

(第10回) 運動学習系 (少作)

(第11回) 細胞外マトリクス系 (金澤)

(第12回) 骨格筋系 (金澤)

(第13回) 血管系 (金澤)

科目ナンバリング	SCS202	強く関連する DP		DP1	
科目名	人体機能学演習	単位数	2 単位	必修選択	必修
担当教員名	清水慶久、少作隆子、金澤佑治、 周尾卓也	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	複合疾患、複合障害を有する人の機能（病態生理）について理解することを目的に、人体機能学特論で修得した知識をもとに複合疾患や複合障害など、多様な病態を有する人において、生体が外界の情報をどのように感知し、どのように適切に反応するのかを理解する。人間の多様な生理機能を、組織学、電気生理学、生物学、生化学の観点から文献抄読及び討論を通して理解を深める。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する人間の生体反応について理解する。</li> <li>・ 複合疾患や複合障害を有する者を含む人間の生体反応を解明していく方法について理解する。</li> <li>・ 複合疾患、複合障害を有する人体機能を理解したうえで、適切な医療技術の検証や医療保健学分野の研究を遂行することができる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	○	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
		DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各回のテーマに関連する生体反応についてまとめる。 復習：各回で気づいた内容について、予習内容と比較する形でまとめる。				
授業方法	講義、グループディスカッション、発表				
成績評価の基準・方法	グループディスカッション (50%)、発表 (50%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	特になし		
授業計画 (第1回) 自律神経系 (清水)  (第2回) 脳神経系 (清水)  (第3回) 血液系 (清水)  (第4回) 生化学系 (周尾)  (第5回) 電解質系 (周尾)  (第6回) 浸透圧系 (周尾)  (第7回) 中枢神経系 (少作)  (第8回) 神経伝達系 (少作)					



(第 9 回) 遺伝子系 (少作)

(第 10 回) 運動学習系 (少作)

(第 11 回) 細胞外マトリクス系 (金澤)

(第 12 回) 骨格筋系 (金澤)

(第 13 回) 血管系 (金澤)

科目ナンバリング	SCL311	強く関連する DP		DP2	
科目名	病態分析検査学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	佐藤妃映、油野友二、關谷暁子	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	生体試料より得られる生体情報を有効活用する基礎となるのは分析技術である。この特論では、分析技術の変革を理解し、今後の方向性を理解する。そのうえで臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための方法論を修得し、臨床所見などからの情報収集能力と情報分析能力を向上させる。さらに臨床の現場でより分かり易く有用な情報として伝える事の出来る専門的技術者の育成目的としている。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種疾患における診療ガイドラインの意義と臨床検査の役割について説明することができる。</li> <li>各種疾患の病態の基本的な事項およびその機序について説明できる。臨床検査の意義が理解でき、さらに進めるべき検査法について説明することができる。</li> <li>研究課題に関連した文献を検索、選別できる能力を養う。さらには、検索した文献をパワーポイント等で、他者にわかりやすく、論文内容の何が新しいか、他の論文との関連等を、自分自身の考察も交えてプレゼンテーションできる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各講義内容について事前課題に取り組み、事前配布資料を読む。 復習：講義配布資料を含め復習し、ノートやレポート作成を行う。				
授業方法	講義、全体討論				
成績評価の基準・方法	レポート (60%)、発表・全体討論における意見や質問等 (20%)、プレゼンテーションのために作成した資料 (20%)				
教科書	Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0	参考書	配付資料 (開講時期における最新の知見に基づき、教員が文献等を選定する)		
授業計画	<p>(第1回) 検体検査を中心とした臨床検査法の変化と、診療における役割 (油野)</p> <p>(第2回) 診療ガイドラインの目的、作成過程、システムティックレビュー (油野)</p> <p>(第3回) 各種診療ガイドラインにおける臨床検査の位置付け (油野)</p> <p>(第4回) 腎尿路系疾患の早期診断、治療過程における臨床検査の役割と今後の展望① 尿定性検査・尿沈渣検査からの病態情報とは (油野)</p> <p>(第5回) 腎尿路系疾患の早期診断、治療過程における臨床検査の役割と今後の展望② 腎機能検査の現状と課題、特に高齢者について (油野)</p>				

(第6回) 分子病理学的検査の概要、各手法の原理や意義、特徴、手技および臨床での実際 (佐藤)

(第7回) 病理組織検査における免疫組織化学染色法の原理や意義、特徴、手技および病理診断の実際 (佐藤)

(第8回) 細胞診検査における免疫組織化学染色法の意義や特徴、手技および細胞診断の実際 (佐藤)

(第9回) 免疫組織化学染色法の課題と臨床での有用性 (検体の品質管理、応用としてはがんゲノム医療におけるコンパニオン診断薬、遺伝子パネル検査について、現場での活用例) (佐藤)

(第10回) 血液検査学領域において検査・診断技術はどのように発展してきたか① 血球計数および形態学的検査 (關谷)

(第11回) 血液検査学領域において検査・診断技術はどのように発展してきたか② 止血・凝固検査 (關谷)

(第12回) 造血器腫瘍の遺伝子検査と分子標的治療 (關谷)

(第13回) 血栓止血領域の新たな治療薬と止血・凝固検査 (關谷)

科目ナンバリング	SCL312	強く関連する DP		DP2	
科目名	病態分析検査学演習	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	佐藤妃映、油野友二、關谷暁子	対象学年	2 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	病態分析検査学特論を基盤として、国内外の論文から臨床検査の臨床的有用性に関する論文を中心に抄読・討議し、医療現場で要求される様々な課題の解決につながる分析法、検査法の開発・活用・臨床的評価等、医療に貢献できる臨床検査技術を集学的に修得する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関連した文献を検索、選別できる。</li> <li>研究課題に関連した文献を検索、選別できる能力を養う。さらには、検索した文献をパワーポイント等で、他者にわかりやすく、論文内容の何が新しいか、他の論文との関連等を、自分自身の考察も交えてプレゼンテーションできる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各講義内容について事前課題に取り組み、配布資料を読む。 復習：講義配布資料を含め復習し、ノートやレポート作成を行う。				
授業方法	抄読会、全体討論				
成績評価の基準・方法	レポート (60%)、発表・全体討論における意見や質問等 (20%)、プレゼンテーションのために作成した資料 (20%)				
教科書	特になし (適宜資料を配布する)	参考書	配布資料 (開講時期における最新の知見に基づき、教員が文献等を選定する)		
<b>授業計画</b> (第1回) 腎尿路疾患に関連した診療ガイドラインの検索、臨床検査関連事項の洗い出し (油野)  (第2回) 診療ガイドラインにおける臨床検査関連事項の記載表現と臨床現場における問題点や課題 (油野)  (第3回) 尿沈渣成分が示す病態情報に関する文献検索とその有用性についてのレビュー (油野)  (第4回) 腎機能検査の精度、問題点などに関する文献検索とその有用性についてのレビュー① 測定法上の問題点、高齢者などにおける課題 (油野)  (第5回) 腎機能検査の精度、問題点などに関する文献検索とその有用性についてのレビュー② 推定指標 (油野)  (第6回) 病理組織標本を用いたゲノム解析技術について、臨床的有用性に関する論文の抄読・討議 (佐藤)  (第7回) 病理組織標本を用いたゲノム解析技術の臨床での課題に関する論文の抄読・討議 (佐藤)					

(第8回) 今後のゲノム解析技術の課題解決に関する論文の抄読・討議 (佐藤)

(第9回) 今後のゲノム解析技術の開発や発展に関する論文の抄読・討議 (佐藤)

(第10回) 日常業務におけるリサーチクエスションの発見から研究へ① 血球計数および形態学的検査 (關谷)

(第11回) 日常業務におけるリサーチクエスションの発見から研究へ② 造血器腫瘍の遺伝子検査と分子標的治療 (關谷)

(第12回) 日常業務におけるリサーチクエスションの発見から研究へ③ 止血・凝固検査 (關谷)

(第13回) 日常業務におけるリサーチクエスションの発見から研究へ④ 血栓止血領域の新たな治療薬と止血・凝固検査 (關谷)

科目ナンバリング	SCL313	強く関連する DP		DP2	
科目名	感染制御学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	小宮智義、松村隆弘	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	感染制御について深く理解するために、世界中で発生している感染症の現状について学び、感染症の予防・診断・治療の方法と臨床的な問題点を明らかにするなど、感染制御に関する実践的な知識を修得する。また、感染症の原因となる微生物に関して、感染増殖戦略、病原因子と宿主側因子の相互作用について学修し、感染制御に関する幅広い専門知識と応用力を習得する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症の予防・診断の動向について説明が出来る。</li> <li>・ ウイルス、細菌、寄生虫が起因する感染症の発症機序について説明できる。</li> <li>・ 修得した専門知識に基づき、感染制御に関する課題改善に向けた具体的な検討、提案を行うことができる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各講義内容について教科書の該当箇所を読む。 復習：講義配布資料を含め復習し、ノートやレポート作成を行う。				
授業方法	講義、全体討論				
成績評価の基準・方法	レポート (60%)、小テスト (20%)、発表・全体討論 (20%)				
教科書	標準微生物学・医学書院	参考書	配付資料		
<p>授業計画</p> <p>(第1回) 感染症概論：今世界で起きている感染症の全体像について (小宮)</p> <p>(第2回) 感染症総論：病原体に対する生体反応について (小宮)</p> <p>(第3回) 感染症総論：新興・再興感染症、人獣共通感染症について (小宮)</p> <p>(第4回) ウイルス感染症：ウイルスの感染の仕組みについて (小宮)</p> <p>(第5回) ウイルス感染症：ウイルス感染症の診断、治療について (小宮)</p> <p>(第6回) ウイルス感染症：ウイルス感染症の予防について (小宮)</p> <p>(第7回) 細菌感染症：細菌感染の仕組みについて (小宮)</p> <p>(第8回) 細菌感染症：細菌感染症の診断、予防、治療について (小宮)</p> <p>(第9回) 細菌・真菌感染症：細菌・真菌感染症の診断、予防、治療について (小宮)</p>					

(第 10 回) 寄生虫感染症：寄生虫感染の仕組みについて (松村)

(第 11 回) 寄生虫感染症：寄生虫感染症の診断、予防、治療について (松村)

(第 12 回) 感染症の予防：ワクチンおよび感染免疫応答について (小宮)

(第 13 回) 感染制御全般について：全体討論 (小宮)

科目ナンバリング	SCL314	強く関連する DP		DP2	
科目名	感染制御学演習	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	小宮智義、松村隆弘	対象学年	2 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	感染症の起因となる病原細菌、ウイルス、真菌および寄生虫の基本的な取扱いと感染現象の解明、診断に必要な技術を分子レベルで解明することを目標として習得する。感染症の診断、予防に関し最新の知識を、演習を通じて学び理解し、感染制御が実践できる能力を習得する。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病原体の取扱い、培養同定技術について説明できる。</li> <li>・ 遺伝子診断、組換えなど遺伝子を用いた基礎的技術について説明できる。</li> <li>・ 感染症の診断結果の妥当性について判断と説明ができる。</li> <li>・ 医療現場における感染制御の課題改善に向けた具体的な提案を行うことができる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各回のテーマに関連する基本原理などを理解する。 復習：各回で気づいた内容について、要点と問題点をまとめる。				
授業方法	演習、発表				
成績評価の基準・方法	レポート (50%)、発表 (25%)、小テスト (25%)				
教科書	必要に応じ資料配布		参考書	指定しない	
<p>授業計画</p> <p>(第 1 回) 各種病原体の取扱い (小宮)</p> <p>(第 2 回) 各種病原体の培養 (小宮)</p> <p>(第 3 回) 培養細胞の継代と感染 (小宮)</p> <p>(第 4 回) ウイルス、細菌の定量 (小宮)</p> <p>(第 5 回) ELISA などによる病原体のタンパク質の検出 (小宮)</p> <p>(第 6 回) SDS-PAGE、Western blotting などによるタンパク質の検出 (小宮)</p> <p>(第 7 回) 核酸の抽出精製、検出 (小宮)</p> <p>(第 8 回) PCR、RT-PCR による高感度検出と遺伝子定量 (小宮)</p> <p>(第 9 回) 大腸菌を用いた遺伝子組換え (小宮)</p>					



(第 10 回) 発現ベクターを用いた遺伝子導入 (小宮)

(第 11 回) 遺伝子診断を用いた寄生虫感染症診断 (松村)

(第 12 回) イメージアナライザーによる画像解析技術 (松村)

(第 13 回) 発表 (小宮)

科目ナンバリング	SPT321	強く関連する DP		DP2	
科目名	運動機能回復学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	大工谷新一、野口雅弘、 岡山裕美、宮地諒	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	身体運動機能障害についての専門的理解を促進し、身体運動機能回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を修得することを目的とし、身体運動の根幹をなす、運動器および呼吸循環代謝機能の障害に対する理学療法学の現状と未来を国内外の文献を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。これらを通じて、身体運動機能の低下及び喪失からの機能回復への新たな理学療法の検討・開発につながるよう内容を発展させる。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動機能の回復に関連する最新の知見と課題を理解する。</li> <li>・ 身体運動機能の回復に関係する基礎的な研究方法を修得する。</li> <li>・ これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：事前にテーマに関連して担当教員が執筆した論文を読み、質問項目をまとめる。 復習：自らが実施してきた理学療法と各回で供覧した理学療法の違い、新たな方法についてまとめる。				
授業方法	講義				
成績評価の基準・方法	レポート (100%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	指定しない		
授業計画 (第1回) 運動器障害に対する理学療法研究 (大工谷) (第2回) 筋短縮に対する理学療法研究 (大工谷) (第3回) スポーツ外傷後の運動神経生理学研究 (大工谷) (第4回) スポーツ動作の改善に関する臨床研究 (大工谷) (第5回) 要介護者の運動機能回復に関する研究 (大工谷) (第6回) 透析患者に対する運動療法に関する研究 (野口) (第7回) 身体不活動による弊害とその対策に関する研究 (野口)					

(第8回) 肥満を起因とする生活習慣病の予防に関する研究 (野口)

(第9回) 代謝疾患に対する運動処方に関する研究 (野口)

(第10回) ストレッチングに関する研究 (岡山)

(第11回) 基本的理学療法技術に関する研究 (岡山)

(第12回) 腰痛に対する理学療法研究 (宮地)

(第13回) 超音波を用いた理学療法効果検証に関する研究 (宮地)

科目ナンバリング	SPT322	強く関連する DP		DP2	
科目名	運動機能回復学演習	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	大工谷新一、野口雅弘、 岡山裕美、宮地諒	対象学年	2 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	運動機能の回復過程とその評価及び支援方法についての実践的な考察を深めることを目的に、運動機能回復学特論で修得した理論を軸として、高齢者や様々な疾患患者の運動機能障害事例を臨床的な症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を通じて、運動機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探究し討論していく。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動機能障害事例における諸問題の解決に向けた具体的方法を想起できる。</li> <li>運動機能障害に対する理学療法における課題とその改善のための具体的かつ科学的な方法を提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	○	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各回のテーマに関連する代表的な理学療法及び典型的な運動機能回復過程についてまとめる。 復習：各回で気づいた内容について、予習内容と比較する形でまとめる。				
授業方法	グループディスカッション、発表				
成績評価の基準・方法	グループディスカッション (30%)、発表内容 (70%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	指定しない		
授業計画 (第1回) 下肢のスポーツ外傷・障害 (大工谷) (第2回) 上肢のスポーツ外傷・障害 (大工谷) (第3回) 頸部・体幹のスポーツ外傷・障害 (大工谷) (第4回) 変形性関節症 (大工谷) (第5回) 骨折 (大工谷) (第6回) 糖尿病 (野口) (第7回) 虚弱高齢者 (野口) (第8回) 肥満を起因とする生活習慣病 (野口) (第9回) 介護予防、健康増進 (野口)					

(第 10 回) 筋損傷 (岡山)

(第 11 回) 基本的理学療法による機能回復 (岡山)

(第 12 回) 腰痛症 (宮地)

(第 13 回) 廃用症候群 (宮地)

科目ナンバリング	SPT323	強く関連する DP		DP2	
科目名	生活機能回復学特論	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	大畑光司、染矢富士子、 合田明生	対象学年	1 年次	開講時期	後期
授業の概要と目的	<p>先天障害や認知症、発達障害を含む心身機能の障害や加齢等に起因する生活機能障害について専門的理解を促進し、生活機能の回復に関する方法論及び臨床場面での問題を解決するための基礎的な研究手法を修得することを目的に、生活機能を構成する心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子に関連する国内外の文献を渉猟し、最新の知見に関する知識を深めるとともに、臨床所見を科学的に捉えるために必要な研究法を教授する。また、介護領域におけるロボットなどを用いた臨床研究に関する理解も深める。これらを通じて、生活機能の低下及び喪失からの回復への新たなリハビリテーション手段の検討・開発につながるよう内容を発展させる。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能の回復に関連する最新の知見と課題を理解する。</li> <li>生活機能の回復に係る基礎的な研究方法を修得する。</li> <li>これまで実施してきた理学療法の問題点と改善方法について提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	◎	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	△	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	<p>予習：事前にテーマに関連して担当教員が執筆した論文を読み、質問項目をまとめる。</p> <p>復習：自らが実施してきた理学療法と各回で供覧した理学療法の違い、新たな方法についてまとめる。</p>				
授業方法	講義				
成績評価の基準・方法	レポート (100%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	指定しない		
<p>授業計画</p> <p>(第1回) 生活機能を構成する心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子 (染矢)</p> <p>(第2回) 障害者の生活機能 (染矢)</p> <p>(第3回) 変性疾患患者の生活機能 (染矢)</p> <p>(第4回) 老化と生活機能 (染矢)</p> <p>(第5回) 生活機能回復に関わる環境因子 (染矢)</p> <p>(第6回) 発達障害者の生活機能 (大畑)</p>					

(第7回) 脳血管障害の生活機能 (大畑)

(第8回) 生活機能回復への介護ロボットの活用 (大畑)

(第9回) 遠隔での運動指導による生活機能向上 (大畑)

(第10回) ロボットを用いた活動・参加の向上 (大畑)

(第11回) 認知症患者の生活機能 (合田)

(第12回) 地域在住高齢者の生活機能 (合田)

(第13回) 生活機能低下予防 (合田)

科目ナンバリング	SPT324	強く関連する DP		DP2	
科目名	生活機能回復学演習	単位数	2 単位	必修選択	選択
担当教員名	大畑光司、染矢富士子、 合田明生	対象学年	2 年次	開講時期	前期
授業の概要と目的	生活機能回復学特論で修得した理論を軸として、生活機能の様々な構成要素及び先進デバイスに関する臨床的な症例報告論文や効果・分析方法に関する論文を通じて、生活機能の回復過程とその評価及び支援方法についての実践的な考察を深め、生活機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求し討論していく。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活機能障害事例における諸問題の解決に向けた具体的方法を想起できる。</li> <li>生活機能障害に対する理学療法の課題とその改善のための具体的かつ科学的な方法を提案できる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	<input type="radio"/>	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	<input checked="" type="radio"/>	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	<input type="radio"/>	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習：各回のテーマに関連する代表的な理学療法及び典型的な運動機能回復過程についてまとめる。 復習：各回で気づいた内容について、予習内容と比較する形でまとめる。				
授業方法	グループディスカッション、発表				
成績評価の基準・方法	グループディスカッション (30%)、発表内容 (70%)				
教科書	指定しない (適宜資料を配布する)	参考書	指定しない		
授業計画 (第1回) 生活機能回復学研究 (染矢)  (第2回) 障害者の生活機能に関する研究 (染矢)  (第3回) 変性疾患患者の生活機能に関する研究 (染矢)  (第4回) 老化と生活機能に関する研究 (染矢)  (第5回) 生活機能回復に関わる環境因子に関する研究 (染矢)  (第6回) 発達障害者の生活機能に関する研究 (大畑)  (第7回) 脳血管障害の生活機能に関する研究 (大畑)  (第8回) 介護ロボットに関する臨床研究 (大畑)  (第9回) 遠隔での運動指導に関する臨床研究 (大畑)					



(第 10 回) ロボットを用いた活動・参加の向上に関する研究 (大畑)

(第 11 回) 認知症患者の生活機能に関する研究 (合田)

(第 12 回) 地域在住高齢者の生活機能向上に関する研究 (合田)

(第 13 回) 生活機能低下予防に関する研究 (合田)

科目ナンバリング	SR401	強く関連する DP		DP3	
科目名	医療保健学特別研究	単位数	8 単位	必修選択	必修
担当教員名	大畑光司、小宮智義、佐藤妃映、清水慶久、少作隆子、染矢富士子、大工谷新一、油野友二、金澤佑治、周尾卓也、關谷暁子、野口雅弘、岡山裕美、合田明生、宮地諒	対象学年	1～2 年次	開講時期	1 年次 後期 2 年次 通年
授業の概要と目的	医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、各専門領域における研究テーマについて、国内外の文献講読、調査・実験、研究データの解釈と検証を行い、研究成果を修士論文として作成するための指導を行う。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究に必要な文献検索、研究計画に沿った実験の遂行、研究データの分析検討を行うことができる。</li> <li>研究結果の中間発表を行うことができる。</li> <li>修士論文を作成することができる。</li> </ul>				
ディプロマ・ポリシーとの関連	○	DP1) 健康社会の実現に貢献するために、医療保健学の高い専門性と倫理観をもって、研究及び実践に取り組むことができる能力を身につけている。			
	○	DP2) 高度専門職業人として、現代の保健医療における課題を認識・理解し、新しい知識と技術を基に、質の高い医療技術を提供できる能力を身につけている。			
	◎	DP3) 科学的根拠に基づいた医療保健学の高度な専門的知識・技術を用い、今後の医療環境の変化に対応した課題解決策を提示できる能力を身につけている。			
準備学習 (予習・復習)	予習・復習：修士論文の作成に向け、研究ノートを用いた学修を行う。				
授業方法	演習				
成績評価の基準・方法	中間発表 (30%)、修士論文の内容 (70%)				
教科書	特になし		参考書	各教員より適宜紹介する	
<b>授業計画</b> (第 1 回～第 13 回) 研究計画に沿った実験の遂行、データ収集・整理  (第 14 回～第 26 回) 研究計画に沿った実験の遂行、データ分析、中間発表会に向けた準備  (第 27 回～第 39 回) 中間発表会、修士論文作成及び校正、発表  <b>【テーマ】</b> (大畑光司) 中枢神経疾患 (脳卒中、脳性麻痺) などの歩行や動作におけるバイオメカニクスや中枢処理過程の特					

徴を把握し、機能改善のメカニズムを解明に向けた理学療法、また、得られた知見を基に遠隔での運動指導やリハビリテーション関連機器の開発及びその社会実装についての研究指導を行う。

(小宮智義)

①フラビウイルスの感染やワクチンで誘導される免疫応答、②人獣共通感染症の診断及び予防に関する課題調査・研究を指導する。

(佐藤妃映)

分子病理学的手法を用いて、液状化検体細胞診の診断精度向上とがんゲノム医療への応用に関する研究を指導する。

(清水慶久)

個人特性を考慮した、①臨床検査値の生理的変動要因の解析もしくは②香りに反応する自律神経系の関係について、研究計画の作成・実施、論文作成までを指導する。

(少作隆子)

脳の正常機能あるいは脳卒中などによる脳機能障害の病態・発症メカニズム・治療・発症予防などに関する研究指導を行う。

(染矢富士子)

リハビリテーション医学における疾病の機能障害の捉え方と生活の質（QOL）との関連性について研究指導を行う。

(大工谷新一)

スポーツ外傷・障害、運動器疾患全般の機能障害や動作の変化を理解し、受傷メカニズムの解明、競技復帰、受傷予防に向けた理学療法に関する研究指導を行う。

(油野友二)

尿中赤血球の量的及び形態的検討から腎尿路系の病態情報としての有用性の検討について研究指導を行う。

(金澤佑治)

サルコペニアの病態解明とその治療戦略の基盤構築に関する研究を指導する。

(周尾卓也)

物質的な基盤に立って、生物化学的な側面から、医療技術の開発にかかわる研究論文の作成・発表を指導する。

(關谷暁子)

「臨床検査学」「検査血液学」「多職種連携」の領域において、医療保健学教育の発展に資する教育プログラム及び教材の開発、実践ならびにその評価に関する研究指導を行う。

(野口雅弘)

加齢による身体機能の変化及び腎疾患や糖尿病、末梢循環障害に起因する機能障害について理解を深め、それらの予防や治療に関する研究の立案から論文執筆までの研究プロセスを指導する。

(岡山裕美)

スポーツ外傷・障害、運動器疾患の機能障害や動作障害を理解し、障害の発生や予防とその改善に向けた理学療法に関する研究指導を行う。

(合田明生)

高齢者の心身機能の低下や能力障害発生のメカニズムの解明や発症予防及び疾患の進行予防に向けた理学療法に関する研究指導を行い、研究計画の立案、研究実施、論文執筆などを指導する。

(宮地諒)

腰痛や慢性足関節不安定症等の筋骨格系障害を中心に、病態の解明、発症・再発予防や進行抑制・改善に向けた理学療法についての研究指導を行い、研究計画の立案、研究実施、論文執筆等を指導する。